

# 南京大虐殺・ 生存者の証言を聞く会 in 神戸



神戸・南京をむすぶ会は今年も中国より「生存者」(中国では幸いに生存したという意味でこの言葉をつかいます)をお迎えして証言集会を開きます。むすぶ会は、96年に「南京1937絵画展」を開催したメンバーが作った市民グループで、毎年8月には南京大虐殺の現場等を訪ねるフィールドワークを行なっています。今夏は、南京・香港を訪問しました。

今年の証言集会は生存者の夏淑琴さんをお招きします。大虐殺当時8歳の夏さんは、9人家族のうち7名が虐殺されました。1998年、亜細亜大学の東中野修道教授が展転社から出版した『南京大虐殺』の徹底検証』で、二セ被害者と書か

れた夏さんは、日本の裁判所に名誉棄損で提訴しました。2009年2月5日、最高裁で1審、2審に続いて勝訴し、東中野修道と展転社は400万円の支払いを命じられました。(証言は裏面を参照ください。)

●挨拶 侵華日軍南京大虐殺遇難同胞紀念館保管研究処学会科副課長 **李雪晴さん**

●ビデオ上映「南京・香港—第16次神戸・南京をむすぶ会訪中の記録」

(撮影・編集 湯本雅典、41分)

●証言 南京大虐殺生存者 **夏淑琴さん**

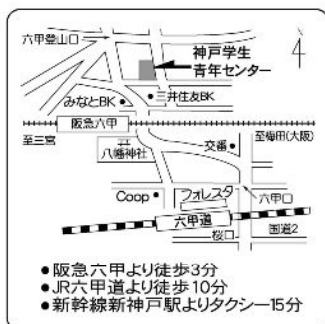
■日時 **2012年12月12日(水) 午後6時30分**

■会場 **神戸学生青年センターホール** TEL 078-851-2760 地図参照

■参加費 **1000円(学生500円)**

※生存者招請のための募金をお願いします。送金先・郵便振替<00930-6-310874 むすぶ会>

①宮内陽子『生徒と学ぶ戦争と平和』(560円)、②成川順『南京事件フォト紀行』(560円)、③阪上史子『海南島と大竹』(320円)、④DVD「南京・香港—第16次神戸・南京をむすぶ会訪中の記録」(500円)を発売中です。購入希望者は、送料(80円)とともに上記郵便振替でお送りください。



**主催:神戸・南京をむすぶ会**

(代表/宮内陽子、副代表/門永秀次、林伯耀)

〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター内

TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878

<http://ksyc.jp/nankin/> e-mail [hida@ksyc.jp](mailto:hida@ksyc.jp)

**後援:神戸学生青年センター**

## 南京大虐殺幸存者・夏淑琴さんの証言

※2009年8月、神戸・南京をむすぶ会第13次訪中団での証言。同報告書より。  
(南京・上海・牡丹江・虎頭・虎林フィールドワーク)

1937年当時は8歳。今は80歳になりました。中華東門新路5号にすんでいました。

1937年12月13日は、9人家族3世代で生活していました。日本兵が家に入り込んできて一瞬に7人、両親、祖父母、2人の姉、1人の妹が殺されてしまいました。残が焼くきわまる日本軍の暴行から70年が経ちました。私の心の傷は癒えることなく続いています、日本兵が我が家に押し入ってきてから。

押し入ってきた日本兵は、20名程度、いきなりノックされて、父が、なんだと思って門を開けたとたん、発砲され殺されてしまいました。日本兵は、中国兵と違って、軍帽をかぶって、銃を持ち、その先がきらきらと光っていました。

振り返りたくはないが、日本兵の空爆は、常習化していたので、我が家では、空爆対策に、大きな机に布団をかぶせて、その中にもぐっていた、一番奥の部屋まで日本兵がやってきました。なぜこの奥の部屋までやってきたのか、不思議です。母が引きずり出され、強姦されました。

9人家族と一緒に、大家さんの4人家族が住んでいました。ノックと同時に、大家のおじさんも出ていってしまったので、撃たれてしまいました。おばさんも、子どもと一緒に机の下に隠れていました。机の脚につかまって出なかったのが、撃って殺されました。子どもたちも、自分の一番下の妹は、1歳で、母を強姦するときにじゃまだと、その場にたたきつけられて殺されてしまいました。父、末っ子、大家さんの家族4人が殺されました。

祖父母と私たち4人姉妹は、奥の部屋のベッドの両サイドに祖父母が座り、布団をかぶせて4人姉妹をかくしていました。祖父母が日本兵ともみあいになり、2人の姉もその場で強姦。じゃまになっていた祖父母は、銃剣で殺されました。上の姉たちが、裸にされ強姦されて、泣き崩れた後、失神していて、4歳の妹の泣き声で目が覚め、傷ついていることに気づきました。3ヶ所日本兵の銃剣に刺されていました。今でもその傷跡が残っています。(背中への傷を見せてくれる。)

4歳の妹の鳴き声で目が覚め、「お母さん、お母さん」というので、私は周りの人をさわったが、手ごたえがなく、死んでいました。妹が泣き叫んでいる

が、自分も耐えられないほどの傷の痛みでした。「お母さん、おなかがすいた。」と泣き叫ぶ妹に、どうしたらいいのかわからなかった。空襲対策に、おこげを缶に蓄えていた、それを思い出して、這ってそれを取り出す。低いすを持ってきて、水を汲んで食べました。

死んだ家族のそばで、水とおこげだけで、10日間ぐらい生活が続いた。しばらくして、隣のおばあさんが訪ねてきた。二人が奇跡的に生き延びることができた、と後になって、知りました。老人ホームに連れて行ってくれました。そのときは服が血で固くなってしまっていて、老人ホームで合いそうな服を直してくれました。背中への傷も、腫れ物ができていました。綿を焼いてそこに貼って、腫れ物の血を取る治療法しかなかったのが、傷跡は今も残っています。食べ物がほとんど無かったので、歩けなくなっていました。毎日おかゆをもらって食べていました。20日間半分飢餓状態でした。当時住んでいた5号には、200か300の遺体があって、集葬しました。水さぎに集め、埋葬しました。

一緒に住んでいた母方のおじさんは、怖がって難民区の中に入っていました。6週間ぐらいして、「帰っていいよ」と難民区で言われて戻ってきました。周りの人に様子を聞いて、老人ホームに来てくれ、難民区に行きました。アメリカ人とドイツ人が、話を聞いて私たちをつれて確かめに来ました。今になってドイツ人が、ラーベと知りました。日記の中に、自分たち家族のことが書いてありました。アメリカ人は、丸い16mmカメラを持っていました。マギー牧師だった。今、誰か、知ることができました。みんなで行って、写真を撮り、ここが、両親が倒れていた所など、確かめました。

思い出したくない過去のことを、日本の右翼の行為で、過去のことを忘れようとしているのに、亜細亜大学教授の東中野修道と松村俊夫という人たちが、「偽の証人」と言い出したことで、苦しく悲しく憤りを感じた。しばらく泣いて泣いて目が見えなくなってしまった。今も憤りを持っている。なぜ自分に、こういう人が言ってくるのか。日本に5回か6回も行き、ようやくのことで、勝訴を勝ち取った。7月2日ー5日に最後の日本行きをしました。支援してくれた日本の皆様に感謝しています。中国と日本が未永く仲良くしていくように祈りたいです。